

鳥信 WEB 版 2022 年 4 月号

<筑後エリア>

*1月15日 ミソサザイ・高良川河口 野田敦子

河口近くに架かる橋からイソシギを見ていると、ジッ・ジッ・ジッと鳴く声が聞こえてきました。セキレイかなと思っていたら川岸の石の上を焦げ茶色の鳥が歩いています。ミソサザイです。こんな開けた所にいるなんて信じられない思いでしたが、尾羽をピンと立て前後に振りながら歩いているので間違ひありません。ほんの10秒程の出会いでしたが、とっても嬉しかったです。

*1月16日 カケス*2、ミヤマホオジロ*2・グリーンピア八女 野田敦子

探鳥会に大幅に遅刻したので一人で探鳥しました。カケスが目の前の木に止まり、久しぶりにきれいな羽を観ることが出来ました。が、寒くて早々に退散。

6年前星野の調査に同行したこと。数羽のカケスを観察中、1羽がバンガローのガラス窓に衝突して落下しました。急ぎ駆けつけると脳振とう？で動けなくなっていました。茶と黒と青と白の美しい鳥です。頭の模様も可愛い。カケスが再び元気に飛び立つまでの10分余りを間近でゆっくり観察しました。カケスには災難でしたが、池長さんが「一生に一度、有るか無いかです」と言われた私たちには忘れられない嬉しい体験でした。この日も寒くて麻生池は全面氷で覆われていました。

*1月27日 ハチジョウツグミ*1・ゆめタウン久留米横、百年公園 野田敦子

百年公園の西側の広場で撮影したツグミ類の同定依頼をしました。ハチジョウツグミとのことです。



△ハチジョウツグミ 撮影：野田(敦)



△ハチジョウツグミ 撮影：野田(敦)

補足解説（池長）

野田さんの写真の個体は 2021 年 1 月に韓国仁川で撮影されている個体によく似ています。

<https://macaulaylibrary.org/asset/297567521>

ハチジョウツグミは筑後エリアのどこかでほぼ毎年のように記録されていると思います。

現在はツグミの亜種として扱われていますが、今後予定されている日本鳥類目録改訂 8 版ではツグミとは分離され、それぞれ独立種として扱われる予定ですので、今後観察される機会があればぜひ報告してください。

*1月28日 コジュケイ*1、ホオジロ*1、ベニマシコ*1・合川町河川敷 野田敦子

小さな樋門でコジュケイを観ました。水路の奥の方にクイナに似た後ろ姿が見えました。頭を挙げて横を向いた時、頬にオレンジ色の斑が見えてコジュケイとわかりました。「以前はよくここでチヨットコイと鳴いていたよ」と聞いたことがありますが初めて観ました。

ベニマシコは雌、ホオジロを観るのは久しぶりで、ナンキンハゼの木に止まっていました。

*1月30日 矢部川中流・河川敷の野鳥（船小屋～瀬高橋付近） 江口浩喜

河川敷のアシ原に種々のホオジロ類（ホオアカ、オオジュリン、アオジ、ホオジロ）、セッカ、ジヨウビタキ、ヒバリの他、河川では、イカルチドリ、カンムリカツブリ、オカヨシガモ、マガモ、ヒドリガモ、アメリカヒドリ、コガモ、カルガモ、カワウ、オオバン、ダイサギ、コサギ、アオサギ、ハイタカ、ミサゴを観察しました。アメリカヒドリは、筑後広域公園の池と行き来しているようです。



△ホオアカ 撮影：江口



△セツカ 撮影：江口

*2月7日 ハゼノキに来る野鳥・広川町 江口浩喜

ヒタキの仲間はハゼノキの実が大好物のようです。地面に落ちているハゼノキの実をルリビタキとジョウビタキが交代で啄みに来ました。



△ルリビタキ 撮影：江口



△ジョウビタキ 撮影：江口

*2月8日 ケリ・筑後川支流佐賀江川 石橋(信)

以前から興味のあったケリを見ました。

書籍によると九州では冬鳥となっていましたが、初めての出会いは、2017年5月末～8月末の城島町六五郎橋付近だったので、夏鳥と思っていました。

今回2月8日、1フレームに2羽の飛翔を撮ることが出来ました。



△ケリ 撮影：石橋

帰宅後写真を見ると次列風切羽先端に違いがありました、♂♀の違いなのか分からず、ネットで調べたり問い合わせてみたりしました。

その結果、以下のことが分かりました。

次列風切羽先端が黒い個体は、幼鳥に見られるが、私の写真では、次列風切羽先端以外は成鳥の色彩なので、昨年誕生した個体で今年には繁殖できる成鳥ではないか。

脇坂英弥さん（環境生物研究会・巨椋野外鳥類研究会）の研究でケリ成鳥の♂♀は、フィールドで色彩では識別できないとのでした。

①雄は雌よりも体がわずかに大きい。

②翼爪の長さは雄の方が明確に長い。（ケリの爪の長さは1羽にも満たない短いもの）

③色彩は雌雄で違いがない、ケリの雌雄は限りなくよく似ている。

色彩が同じ鳥はどのようにして相手を見つけるか？

例として、人間の目には同じに見える色であっても、人には見えない紫外線のもとでは鳥が異なる色に見えていることが、海外の研究で明らかになっています。

ケリは、世界的にみると日本と中国南西部の一部に限られています。また国内では主に東北・北関東・東海・北陸・近畿地方の一部に局所的に分布しているだけで、水田を主な生息場所にしている鳥。

ケリは一夫一妻のつがい関係をもっています。今のところ、雄1羽と雌1羽がペアになり、巣作りと抱卵、ケリのペアは互いが生きている限りは離婚することなく、つがい関係を継続する。

ケリは年を隔ても同じ営巣場所を利用し続ける可能性がある。

※今年も雛が見れるかもしれません。

ケリの親鳥はヒナに餌を与えることはなく、餌のありそうな場所へヒナを引き連れ、歩いて移動します。その後は「さあ、お食べ」とヒナの自主性に任せます。

※私が2021年確認の抱卵地で、ケリ親子を見れなくなった事の訳が理解できました。

ケリは野生の状態で、少なくとも「14年以上の寿命と繁殖能力をもっている」そうです。

私のケリの記録 石橋(信)

2018年5月17日、2019年5月末-12月、2020年4月中旬～6月27日（ひな鳥確認）、2021年4月18日～6月19日（4月19日抱卵確認～5月10日まで以後抱卵か所でケリ確認出来ず）6月19日別地で雛親子確認、2022年1月15日、2月8日。



△ケリの抱卵(2021年4月27日)



△雛連れのケリ(2021年6月19日) みやき町

*2月20日 強風で田んぼに避難したクロツラヘラサギ*43羽の群れ 松富士将和

有明海水鳥調査の日は風が強く、潮が満ちた後、風除けに麦畑に避難した沖の端川河口右岸の昭代干拓のクロツラヘラサギを観察しました。



△クロツラヘラサギ 撮影：松富士

*2月25日 ミソサザイ・県緑化センター 野田敦子

緑化センター前の橋の下からジッジッと鳴きながらミソサザイが出て来ました。1月にも同じような環境でみました。冬になると里におりてくるのでしょうか。

*2月27日 花立山の野鳥 野田(美)

花立山の城山公園の池でミコアイサの♀1羽を確認しました。他のカモに比べても断然警戒心が強く、なかなか近くには来てくれませんでした。カモは他にはカルガモ、ヒドリガモ、マガモ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロがいました。花立山の上空では、2羽のハイタカが派手に空中戦をしていました。



△ミコアイサ雌 撮影：野田(美)



△ハイタカ 撮影：野田(美)

*2月28日 ウグイス初鳴き・合川町河川敷 野田敦子

ようやくホーケキヨと聞こえて来ましたが、まだ声は短く不安定で、四苦八苦しながら練習している様でした。

先日ラジオで興味深い話を聞きました。ホー・ホケケキヨと鳴くのは雄で、繁殖期になると雄性ホルモンが出て喉の筋肉を発達させ(もう少し詳しい説明でしたが)、よく通る美しい声が出る様になるということでした。縄張りを主張したり、雌を惹き付けたりと大変だけど、頑張れホー・ホケキヨ！

*3月4日 メジロとムクドリの行動観察 松富士将和

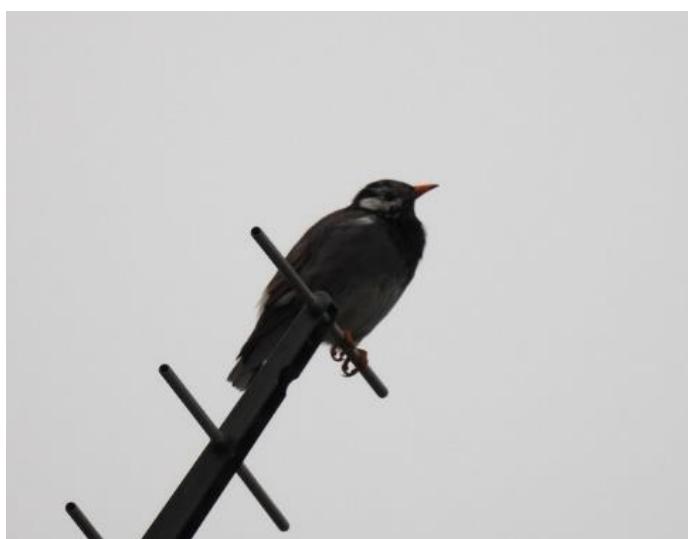
春、ぽかぽか天気の日には、鳥たちも活発に動きまわっているようですね。

今年はメジロが少ないと言われましたが、春になって、良く来てくれるようになりました。

そんなメジロのえっというような姿と、ムクドリの行動を観察しました。



△シマサルナシの実を啄むメジロ 撮影：松富士



△ムクドリ(噂らない時は喉を引っ込めている) (噂るときは喉を前に出している) 撮影：松富士



*3月5日 城山公園、笠堤、大添溜池の野鳥 野田(美)

山神ダムでベニマシコを観察した後、近所のため池めぐりをしました。

且田ガ浦堤（小郡市城山公園）には、まだミコアイサ♀ 1羽がいましたが、警戒心が強くななかな
か近づいてはくれません。カイツブリはすぐ近くまで来てくれました。



△カイツブリ 撮影：野田(美)

笠堤（筑前町）にはミコアイサ♂ 1羽とオシドリ 17羽がいました。ここは車道が接しています
が、道幅が狭く、地元の方もよく通りますので、車は南側の熊野神社の駐車場か、北側の広い道路
にでも止めて歩きで観察する方がいいです

大添溜池（小郡市）にはコウノトリが1羽いました。足環で確認したところ、徳島県鳴門市生ま
れの2才弱の♂ (J0280) のようです。しきりに長い枝をくわえては運んだりを繰り返していました。
通常は3才ごろから繁殖を始めるそうなので営巣本能が芽生えてきているのかもしれません。



△ミコアイサ雄 撮影：野田(美)



△オシドリ 撮影：野田(美)



△コウノトリ 撮影：野田(美)

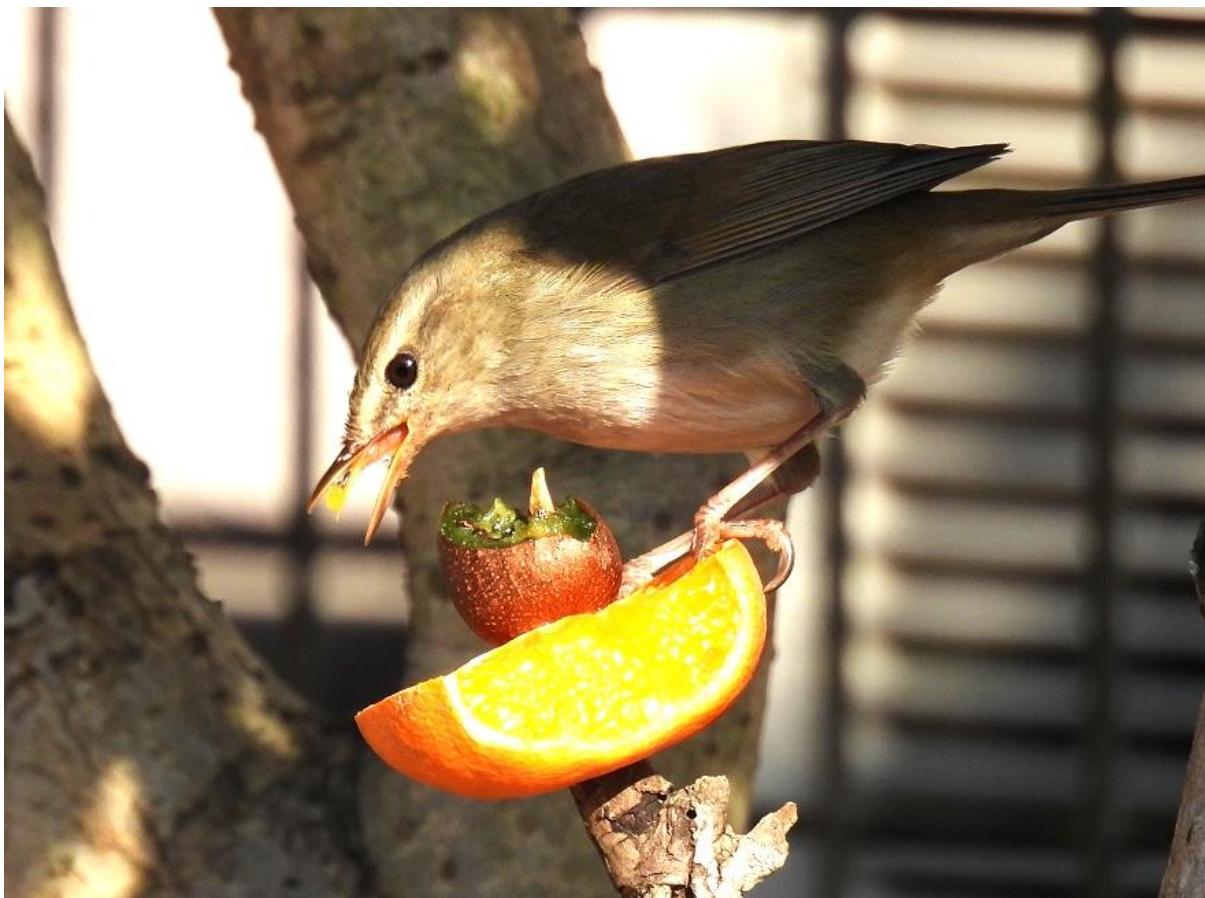
*3月6日 マミチャジナイ*1・みやま市清水山 江口浩喜
あちこちにシロハラがいて、その中に1羽混じっていました。



△マミチャジナイ 撮影：江口

*3月8日 シマサルナシにウグイスが来ました 松富士将和

我家の金木犀の枝にミカンとシマサルナシを刺している枝に、メジロが食べているのは先月に撮りましたが、ウグイスは中々姿を見せなくて撮れませんでしたが、ついにウグイスが来て食べている写真を、ばっちり撮れました！



△シマサルナシを啄むウグイス 撮影：松富士

*3月10日 メジロ・・みやま市清水山 江口浩喜

テレワーク前の早朝バードウォッチングで、ハナモモの花にメジロの群れがやって来てしきりに花の蜜を吸っているのを見つけました。



△メジロ 撮影：江口

<近隣エリア>

*2月27日 山神ダムの野鳥 野田(美)

山神ダムには林道に入ってすぐの所に4名ほど先客があり、ベニマシコやキクイタダキが出たとの話でした。少し進んだところでルリビタキの♂2羽、♀（タイプ）4羽が入れ替わり現れると教えてもらい、たっぷり観察できました。その後林道を歩きましたが、アカウソが桜の新芽を食べているのを観察できたくらいでベニマシコには会えませんでした。



△ウソ(亜種アカウソ) 撮影：野田(美)

おまけ

2016年1月22日に星野村で出会ったカケス（1月16日の野田さんの報告を参照）



△カケス 撮影：池長